英語論文講読

［演習］　第３学年　後期　選択　1.5単位

《履修上の留意事項》本科目では、英和辞書が必携である。「ステッドマン医学大辞典」の入った電子辞書の使用を奨励する。

《担当者名》○福田真二　fukuda@hoku-iryo-u.ac.jp　田村至

【概　要】
4年次の科目「卒業研究」における研究をするために、言語聴覚学（特に言語発達学・言語発達障害学、失語・高次脳機能障害学）に関係する英文論文を講読する練習を行う。
この科目は、将来、大学院への進学を考えている学生にもお勧めの科目である。

【学修目標】
【一般目標】
研究をするために必要な英語での情報収集能力を身に付ける。
【行動目標】
1．言語聴覚学に関係する英語論文を読める英語読解能力を身に付ける。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	ガイダンス	科目の概要、学習目標、講義日程、学習内容、評価方法、課題、推薦図書、学習の準備、オフィスワーの活用法等を理解する。	福田真二
2 ∫ 6	英語論文講読Ⅰ	言語発達・言語発達障害に関する英語論文を講読する。	福田真二
7 ∫ 11	英語論文講読Ⅱ	失語症・高次脳機能障害に関する英語論文を講読する。	田村至
12	総括	全体のまとめ 【小テスト】	田村至

【授業実施形態】
面接授業
※授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】
小テスト　50%、その他（課題、受講態度など）　50%

【参考書】
Schwartz, R. G.　編　Handbook of child language disorders, 2nd edition.　Routledge　2017年
Damico, J. S.　他　編　The handbook of language and speech disorders, 2nd edition.　Wiley-Blackwell　2021年
Leonard, L. B.　著　Children with specific language impairment, 2nd edition.　The MIT Press　2014年
Foster-cohen, S. H.　著　An introduction to child development.　Longman　1999年
Gleason, J. B.　他　著　The development of language, 10th edition.　Plural Pub Inc.　2023年
Grodzinsky, Y.　著　Theoretical perspective on language deficits.　The MIT Press　1990年
Caplan, D.　著　Neurolinguistics and linguistic aphasiology: An introduction.　Cambridge University Press　1987年
Obler, L. K.　他　著　Language and the brain.　Cambridge University Press　1999年
Pinker, S.　著　The language instinct: How the mind creates language.　William Morrow Company　1994年
Jackendoff, R.　著　Pattern in the mind: Language and human nature.　Basic Books　1994年

【学修の準備】
指定された英語論文を、講義までに必ず読んでくること。英語力のレベルにもよるが、毎回数時間の予習（80分以上）・復習（80分以上）が必要になる。

【その他】

適宜、資料を配付する。
開講日時が変則となる。詳細は、ガイダンス時に説明する。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】
（DP5）国際的および地域的視野を有するリハビリテーションの専門家として活躍できる能力を身につけている。
（DP6）社会の変化や科学技術の進歩に対応できるよう、常に専門領域の検証と、積極的な自己研鑽および言語聴覚療法科学の開発を実践できる能力を身につけている。

【実務経験】
田村至(言語聴覚士)

【実務経験を活かした教育内容】
田村至：医療機関での臨床経験を活かし、言語聴覚部門の英語論文講読を行う。